

平成27年度 三河港コンテナ物流実態調査委託業務 実施概要 (三河港振興会 委託事業)

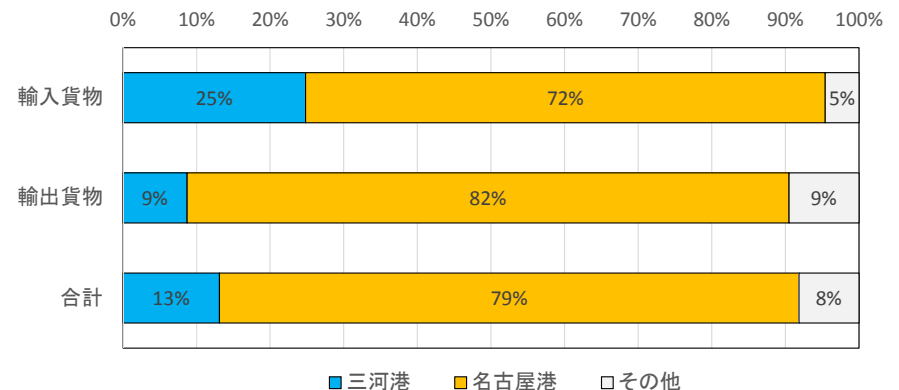
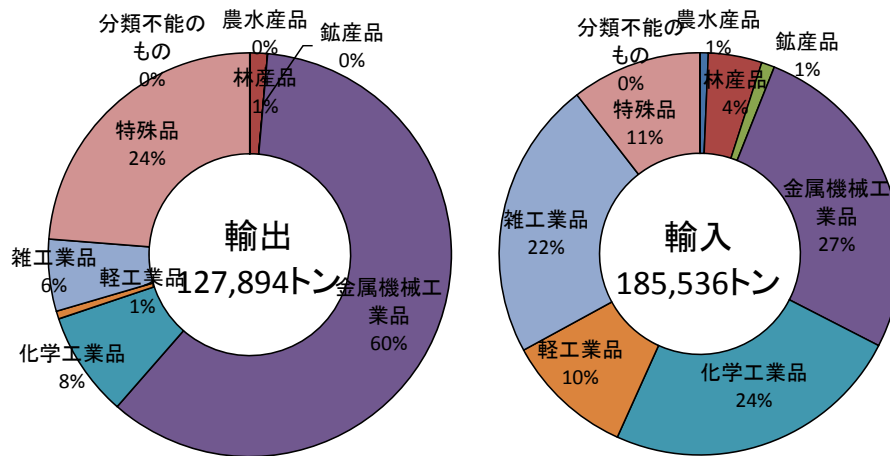
1. 業務の目的

本業務では、三河港背後圏のコンテナ貨物の流動実態を調査し、新規貨物の獲得に向けた貨物集荷範囲の拡大や新規航路開設等について検討を行い、今後の貨物集荷促進のためのポートセールス活動、物流活性化及び地域産業の振興に向けた基礎資料を作成した。

2. 業務の概要

三河港背後圏企業、荷主等へのヒアリング調査により、コンテナ貨物の物流状況について実態を把握した。全国輸出入コンテナ貨物流動調査等の統計を活用して、三河港背後圏のコンテナ貨物の物流動向の情報を整理した。以上を踏まえて、三河港のコンテナ貨物集荷策を検討した。

3. 業務の結果(一部抜粋)



■三河港の品目別のコンテナ貨物量

輸出コンテナ貨物は、輸出量が127,894トンで、金属機械工業品が全体の60%を占めており、以下、特殊品24%、化学工業品8%、雑工業品6%となっている。
輸入コンテナ貨物は、輸入量が185,536トンで、金属機械工業品27%、化学工業品24%、雑工業品22%、特殊品11%、軽工業品10%である。

■ヒアリング企業のコンテナ貨物の利用港湾

ヒアリング企業のコンテナ貨物の利用港湾をみると、名古屋港の利用が多く、輸入貨物の72%、輸出貨物の82%、全体の78%を名古屋港が占めている。
三河港の利用割合は、輸入貨物が25%、輸出貨物が9%、全体の13%であった。